

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

東京医科歯科大学

医学部・歯学部

科目

英語

総括

試験時間	90分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	120点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年同様、大変読みやすい「科学研究紹介記事」だった。英文のレベル・長さはほとんど変わっておらず、大量の英文を読みこなしながら、大量の客観問題、大量字数の要約問題をこなしていくことが求められる。

〈特記事項・トピックス〉

最後の要約字数が今年も300字以内と、この大学としては少なめな字数が続いている（かつては500～600字以内であった）。その一方で、要約以外の設問の複雑化傾向は数年続いている。3番内容一致の選択肢の数が20から更に24に増えた。

〈合格への学習対策〉

最大の特徴は、1500wordsレベルの長い英文と、数百字にわたる要約である。しかし、ここ数年は、最後の論述ばかりでなく、小問でも勝負する力が求められる傾向にある。即ち、医学科なら、論述はほぼ満点を取り、小問でも手堅く取らなくてはならないということで、総合的な英語力が求められるようになった。

対策としては、語彙・文法、作文の学習にこれまで以上に力を入れ、さらに的確に論旨を把握する練習を積む必要がある。まずは1～2ページの文章を100字程度に要約する練習から始め、夏休みの頃から、1500words前後の文章を300～600字で要約する練習にかかることよ。

内容は医学に関連したものが多いが、主張型の文章には政治・経済の要素が絡む場合もある。日本語の新聞で常識を身につけ、時に英文の科学記事やコラムを読んでみる。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	選択	単語の意味選択	標準的な単語はもとより、難しい単語の意味を文脈から推測させるものも含む。	標準
2	選択	内容一致(英文)	選択肢の数は24。時間内で正確に全てを解くことは、容易ではないかもしれない。	標準
3	記述	指示語の内容説明(英語による)	指示語の内容をシンプルに3語以内で答える形式は概ね昨年通り。	標準
4	記述	英問英答	「自分の言葉で」「完全な文で」「10～20words」という指示は、概ね昨年通り。	やや難
5	記述	英文和訳	昨年同様の平易な和訳問題が2題。	易
6	記述	「カラスにおける社会的知性」論文の内容を300字以内でまとめる。	カラスが食物を隠す行動に、類人猿だけが持つと考えられてきた「社会的知性」を認めるという研究。新たな仮説を最小限のデータと共にまとめる。昨年同様のまとめやすい内容。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

出典・資料 ※該当する場合記入

“Don't call me birdbrained” Joanna Dally (*New Scientist*, 2007年6月23日)